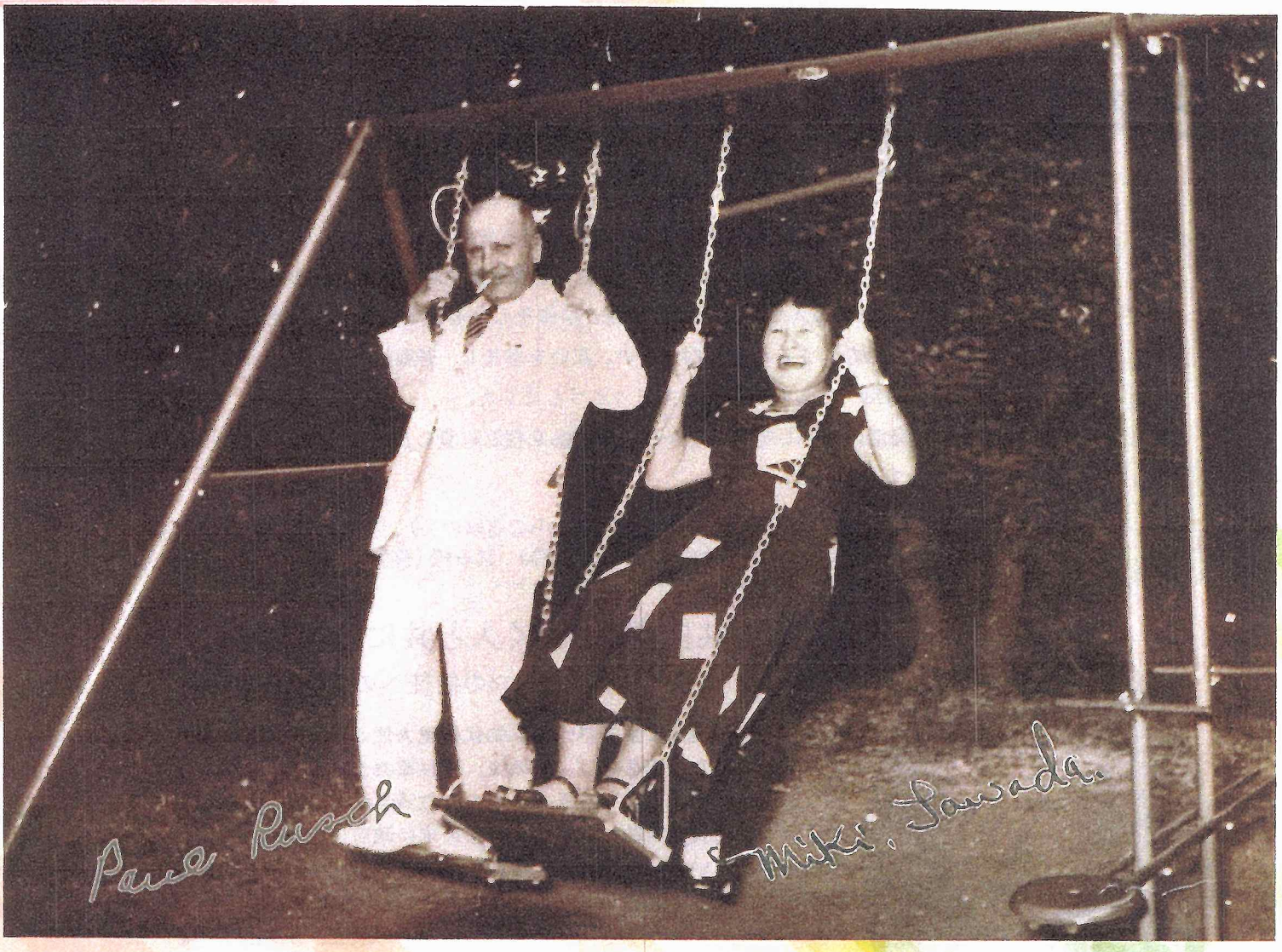

エリザベス・サンダース・ホーム創立75周年・清泉寮創立85周年記念

戦後 日本に希望を灯したふたり

～ 澤田美喜とポール・ラッシュ 響きあう心 ～

2023.10.6(金)－28(土)

友として互いを励まし合い、苦難にも諦めることなく、
生涯を人々の希望の灯となるべくまっとうしました。
ふたりの想いと軌跡を紹介します。

神奈川県・大磯、山梨県・清里で同時開催

澤田美喜記念館

社会福祉法人
エリザベス・サンダース・ホーム

〒255-0003　神奈川県中郡大磯町大磯1152
JR東海道本線　大磯駅前

ポール・ラッシュ記念館

清泉寮 KIYOSATO KEEP SEISEN-RYO SINCE 1938

〒407-0301　山梨県北杜市高根町清里3545
清里高原　清泉寮新館奥

エリザベス・サンダース・ホーム創立75周年・清泉寮創立85周年記念

戦後 日本に希望を灯したふたり

～ 澤田美喜とポール・ラッシュ 響きあう心 ～

太平洋戦争以前は、文化交流を通じて家族ぐるみの友人だった澤田美喜とポール・ラッシュ。それぞれの戦後を迎え、混乱期に過酷な運命を背負った混血孤児を養育しようとする事業をはじめた美喜、疲弊した日本の人たちに食糧と保健と信仰そして希望を持たせようと農村開拓に挑んだポール。ふたりはたくさんの壁に向き合い、互いを励まし、苦難にも諦めることなく、その生涯を人々の希望の灯（ともしび）としてまっとうしました。

今回の特別展では、交流のあかしであるゆかりの収蔵品を相互に貸し出して公開し、ふたりの想いと軌跡を紹介します。

相互貸出資料：澤田美喜記念館へ：器（伊万里焼 澤田美喜からの寄贈の品）、サイン入り野球ボールなど
ポール・ラッシュ記念館へ：油彩画（澤田美喜作）、踏み絵（模型）など

『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい』

ローマの信徒への手紙12章15節

澤田美喜

三菱財閥・岩崎家に生まれ、後に初代国連大使となる外交官・澤田廉三と結婚した澤田美喜は、終戦後、進駐軍兵士と日本人女性との間に生まれ、孤児となった子どもたちの救済を決意しました。私財をなげうって資金集めに奔走し、苦心の末に政府に物納した大磯・岩崎別邸を買い戻した美喜は、昭和23年（1948）エリザベス・サンダースホームを開設しました。その後2つ目の事業として、ホームの子供たちが通う学校「聖ステパノ学園」の設立、3つ目の事業として「隠れキリシタンの遺物記念館~澤田美喜記念館」の創設という文化事業も手掛けました。多くの子ども達を育て上げ、社会に送り出した功績は、やがて世界の人々も知るところとなり、多くの称賛の声が寄せられるようになり、没後、大磯町名誉町民賞も頂きました。

『我、山に向かいて目をあげん、我が助けはいずこより来たるか』

詩篇121篇1節

ポール・ラッシュ

米国ケンタッキー州出身。関東大震災で崩壊した東京と横浜のYMCA再建のため1925(大正14)年に国際YMCAから派遣され28歳で初来日しました。東京・聖路加国際病院建設の募金活動、日本聖徒アンデレ同胞会の設立など多くの社会事業、学生スポーツ等に尽力し、青少年訓練清泉寮キャンプ場として1938(昭和13)年に山梨県の清里高原に「清泉寮」を建設。日米開戦により強制送還された後は米国陸軍日本語学校で日系2世兵の指導に当たり、終戦後はGHQ将校として戦禍で疲弊した日本社会の再建活動に取りくみました。82歳で亡くなるまで「青年への希望」を掲げ、生涯を日本の社会事業に捧げたのです。”Do your best and it must be first class”は、無償の奉仕で社会事業に取り組んだ際の心構えであり、また日本の若者に残した言葉として有名です。

社会福祉法人 エリザベス・サンダース・ホーム

清泉寮 KIYOSATO KEEP SEISEN-RYO SINCE 1938